

肺炎球菌とワクチンについて (2024年10月改訂)

1) 肺炎球菌とは？

肺炎球菌は多くのお子さんののどや鼻にいる菌で、特別な菌というわけではありません。ふだんはおとなしいのですが、大人にくらべてこどもは抵抗力が弱いために、肺炎球菌による重症の病気をひきおこしやすいと言われています。

2) 肺炎球菌がひきおこす病気

「肺炎球菌」という名前からもわかるように、こどもの細菌性肺炎では最も多い原因菌です。しかし、肺炎球菌は肺炎だけではなく、実にさまざまな病気をおこします。

脳や脊髄をおおっている髄膜の中に入りこんで「細菌性髄膜炎」をおこしたり、血の中に入りこんで「菌血症（敗血症）」をおこしたり、耳や鼻の奥にはいりこんで「中耳炎」や「副鼻腔炎、いわゆるちくのう」をおこしたりします。

侵襲性肺炎球菌感染症は抗菌薬による治療が発達した今日でも重い後遺症を残したり、命の危険を伴う感染症です。そのためワクチンでの予防が非常に重要になります。

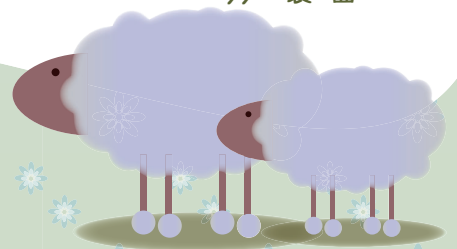
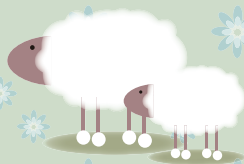
3) 肺炎球菌ワクチンとは？

肺炎球菌には90種以上の血清型（種類）があり、重症な感染症を起こす型をターゲットにしてワクチンが開発されてきました。定期接種が始まる前に比べて定期接種が始まった後では、5歳未満の侵襲性肺炎球菌感染症は約8割減少させることができました。

日本では2013年4月から7種類の血清型をカバーする7価肺炎球菌ワクチン（PCV7：プレベナー7®）が定期接種となり、2013年11月から13価肺炎球菌ワクチン（PCV13：プレベナー13®）、2024年4月から15価肺炎球菌ワクチン（PCV15：バクニューバンス®）、2024年10月から20価肺炎球菌ワクチン（PCV20：プレベナー20®）が定期接種となりました（表）。カバーする血清型を増やすことで、肺炎球菌感染症をより減らすことが期待されています。2024年10月現在、使用できるワクチンはPCV15（バクニューバンス®）とPCV20（プレベナー20®）の2種類になります。

副反応を気にされる方も多いと思います。ワクチンなので副反応が全く何もないというわけにはいきませんが、接種部位の発赤や腫れ、硬結（かたくなる）、注射後のふきげんなど軽度のものが多いです。また、接種後約1割の人に38℃以上の熱が出ることがあります。

≫ 裏面へ



ワクチン	カバーする血清型 (赤字が以前のものと比べ追加された血清型)
PCV7 : プレベナー7®	4, 6B, 9V, 14, 18C, 19F, 23F,
PCV13 : プレベナー13®	1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F, 23F
PCV15 : バクニューバンス®	1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F, 22F, 23F, 33F
PCV7 : プレベナー20®	1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 8, 9V, 10A, 11A, 12F, 14, 15B, 18C, 19A, 19F, 22F, 23F, 33F

表：各肺炎球菌ワクチンとカバーする血清型

4) ワクチンの接種スケジュール

(基本：初回接種3回＋追加接種1回＝合計4回)

なるべく早く免疫をつけるために、生後2ヶ月になったら他のワクチンとともに接種を開始しましょう。他のワクチンとの同時接種は医療機関に来る回数も少なく済みますのでお勧めしています。まずは1か月ごとに3回接種して（初回接種）、1歳になったら追加接種をします。詳しいスケジュールは医師にご確認ください。

初回接種の開始が生後7か月以上となった場合は、接種のスケジュール・回数が異なりますので、医師にご確認ください。

2024年10月現在、使用できる肺炎球菌ワクチンはPCV15（バクニューバンス®）とPCV20（プレベナー20®）のみであるため、以前接種していた肺炎球菌ワクチンの種類によって、今後接種するワクチンが異なります。接種時に母子手帳を確認させていただき、医師がご案内します。

PCV13（プレベナー13）で
接種を開始した方

途中でPCV15に切り替えた方

そのままPCV15で接種を完了させる

一度もPCV15を使っていない方

PCV20に切り替えて接種を完了させる

PCV15（バクニューバンス）
接種を開始した方

そのままPCV15で接種を完了させる

PCV20（プレベナー20）
接種を開始した方

そのままPCV20で接種を完了させる

自由が丘メディカルプラザ 小児科

2024年10月更新
日本小児科学会専門医
日本血液学会血液専門医
高嶋 能文

